

学内広報

2014.8.25

no.1457



本部広報課を通じて自分たちの学術情報を世界に伝えよう

研究成果を公式発表する3つの方法

アインシュタインの最後の宿題に挑戦する大型低温重力波望遠鏡

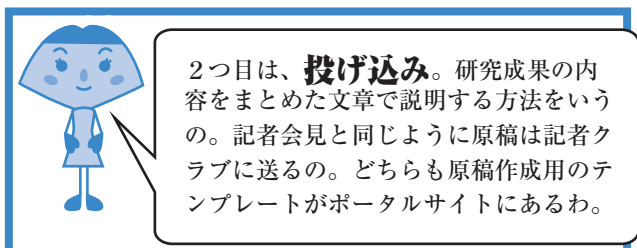
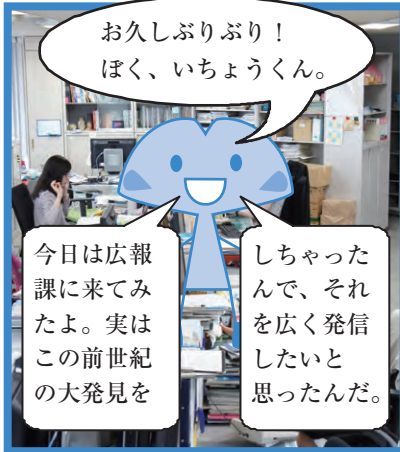
KAGRAのトンネルが完成しました

本部広報課を通じて自分たちの学術情報を世界に伝えよう

研究成果を公式発表する

◎表情の少なさと背景

の省略っぷりが魅力の「いちょうくん」が読めるのは『学内広報』だけ！



東京大学 (The University of Tokyo)

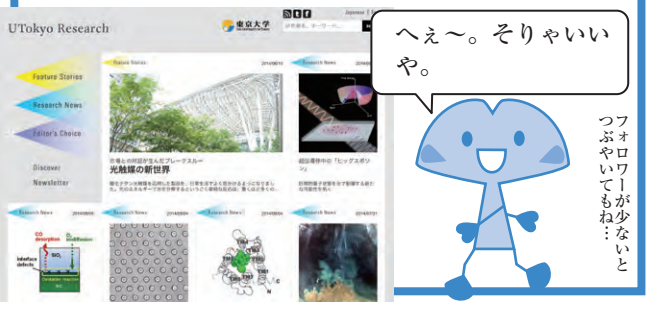
※別紙参照

原稿はPDFを提出する場合は、こちらからダウンロードしてください。
原稿はWordの場合、PDFは印刷時に自動的に変換されます。

リソース文には、以下の項目を入れてください。
FAXでの送付となりますため、文字ポイントをはるべく大きめにしてください。
下記の内容を漏れしてはいけません。全く同じ形式でなくとも構いませんが、その場合も可能な限り本文のロゴを挿入するようにしてください。

タイトル
(あまり長くなりすぎない、内容を的確にひと目で伝達し、キャッチーなタイトルを付けて下さい)

- 発表者** お名前 (東京大学大学院○○研究科○○専攻 職名)
(※ 所属先・職名も正確に記載ください。教職員の場合、職員名簿に記載されている職名を記載します。)
- 発表のポイント** (※ 内容のポイントを以下の要領で**最大**5項目まで簡潔に(本文5行以上)に要約してください)
● どのような成果を出したのか
● 新規性 (何が新しいのか)
● 社会的意義 / 将来の展望
- 発表場所** (※ 研究内容を、専門家に紹介する文章。300~500文字程度)
<必要な情報>
● 誰がどのような成果を出したのか (一人称(我々)ではなく、三人称(東京大学○○研究科)の立場から、など)
● 新規性 (何が新しいのか)
● 社会的意義 / 将来の展望



3つの方法

研究室ですばらしい研究成果が出たとき、皆さんはそれをどのように発表していますか？ 研究科・研究所のホームページやツイッターやFacebookで？ それらもちろんいいですが、本部広報課を通じ、東京大学公式のリリースとして発表するのも効果的なんですよ！ との思いを現場担当者総出でお知らせします。

◎「裸子植物界のスター」いちようくんに励ましのおたよりを↓本部広報課 (kouhoukikaku@ml.adm.u-tokyo.ac.jp)



UTokyo Research の大きな特長は、日本語と英語の両方で研究成果を発表できることよ。きょうび、研究のアウトリーチもグローバルにやらないとね！

ご、ごもっとも…ただ…英語は…正直苦手です…

なにぶん国産のいちようですし…

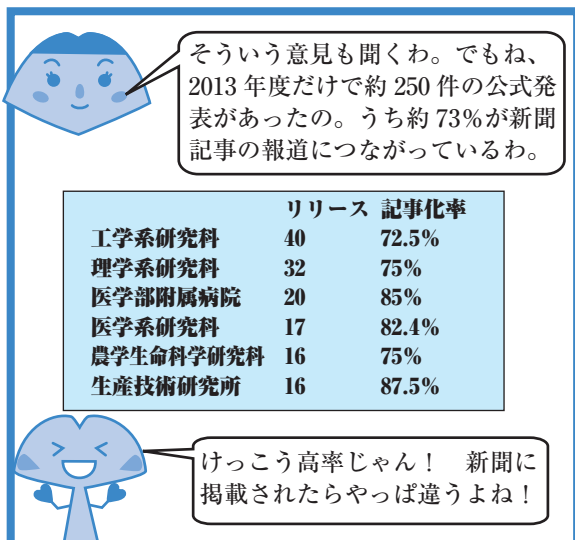


お手やわらかにお願いします (マックイ)

ありゃ、バレた(汗)でもさあ、公式発表のためにわざわざ原稿を作るなんて面倒じゃない？

大丈夫。広報室のマックイ特任研究員が手伝ってくれるわ。でも全部マックイさんまかせじゃだめよ。UTokyo Researchのテンプレートもあるしね (ポータルサイト参照)。

いつもご利用ありがとうございます



そういう意見も聞くわ。でもね、2013年度だけで約250件の公式発表があったの。うち約73%が新聞記事の報道につながっているわ。

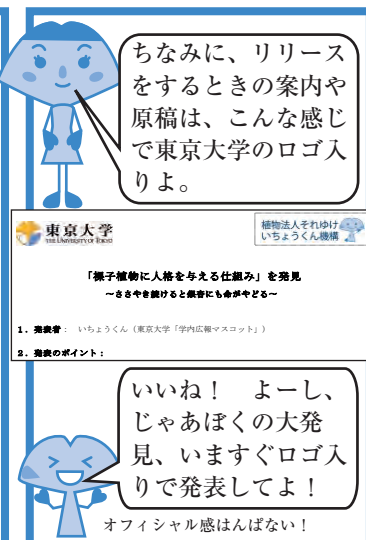
	リリース	記事化率
工学系研究科	40	72.5%
理学系研究科	32	75%
医学部附属病院	20	85%
医学系研究科	17	82.4%
農学生命科学研究科	16	75%
生産技術研究所	16	87.5%

けっこう高率じゃん！新聞に掲載されたらやっぱ違うよね！



それには正確でわかりやすい原稿が必須だから、私たちは日々原稿を精査しているの。口うるさく思われるかもしれないけど…。すばらしい研究はきちんと伝えるのが役目だと信じているから…。

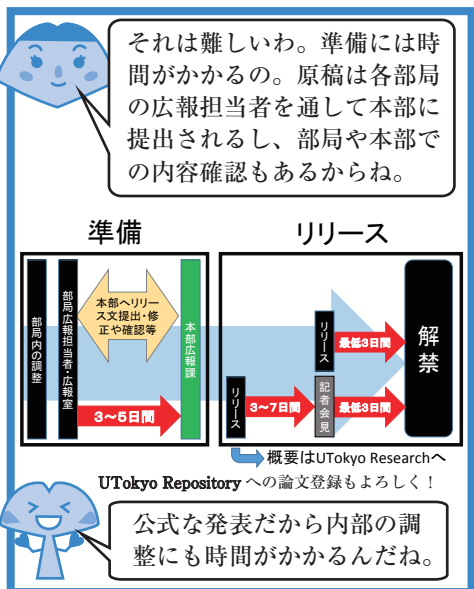
た、たけもとねえさん…



ちなみに、リリースをするときの案内や原稿は、こんな感じで東京大学のロゴ入りよ。

いいね！ よーし、じゃあぼくの大発見、いますぐロゴ入りで発表してよ！

オフィシャル感はんばない！

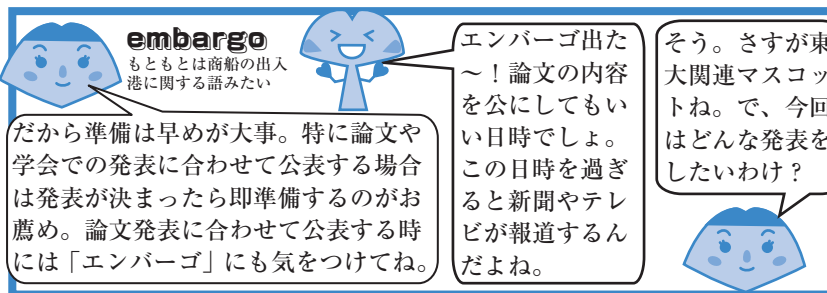


それは難しいわ。準備には時間がかかるの。原稿は各部局の広報担当者を通して本部に提出されるし、部局や本部での内容確認もあるからね。

準備 (3~5日間) → **リリース** (3~7日間) → **解禁** (3日間)

概要はUTokyo Researchへ
UTokyo Repository への論文登録もよろしく！

公式な発表だから内部の調整にも時間がかかるんだね。

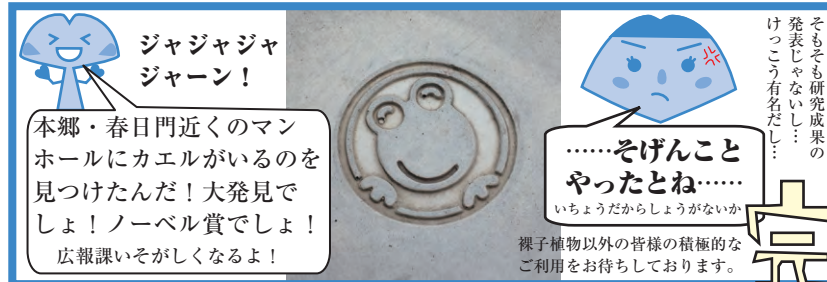


embargo もともとは商船の出入港に関する語みたい

だから準備は早めが大事。特に論文や学会での発表に合わせて公表する場合は発表が決まったら即準備するのがお薦め。論文発表に合わせて公表する時には「エンバゴ」にも気をつけてね。

エンバゴ出た〜！論文の内容を公にしてもいい日時でしょ。この日時を過ぎると新聞やテレビが報道するんだよね。

そう。さすが東大関連マスコットね。で、今回はどんな発表をしたいわけ？



ジャジャジャーン！

本郷・春日門近くのマンホールにカエルがいるのを見つけたんだ！大発見でしょ！ノーベル賞でしょ！広報課いそがしくなるよ！

……そげんことやったとね……

そもそも研究成果の発表じゃないし！けっこう有名だし！

裸子植物以外の皆様の積極的なご利用をお待ちしております。

完

特集は次のページにつづく

参考 リリース作成時の注意点

1. タイトルは専門的な用語の羅列ではないか。平易でわかりやすいものか。
† タイトルを平易に、サブタイトルを少し専門的に（あるいはその逆でも）という組み合わせも◎
† プレスリリースを受け取る記者は、1日に百本以上のプレスリリースを受け取っているため、記者の目を引きつけるには、難易度の高くない、わかりやすいタイトルが◎。
2. 【発表ポイント】、【発表概要】、【発表内容】の文体は揃っているか。
† 「です・ます調」と「だ・である調」が混ざっていないか。
3. 【発表概要】や【発表内容】が三人称で記載されているか。
† 「考えられます」、「考えられる」は一人称で使われている場合が多い。一般的にという意味で用いられる場合もあるが、著者らの主張を述べている場合が多い点に留意。
4. 【発表ポイント】、【発表概要】、【発表内容】、【図の説明】に表記揺れはないか。
† 「タンパク質」、「たんぱく質」、「蛋白質」

- † 「仕組み」、「機構」、「メカニズム」
5. 【発表ポイント】は1～2行で簡潔か。
6. 【発表概要】に必要な情報は含まれているか。
† これまでの課題／問題提起
† 今回の成果
† 研究手法などの詳細
† 結論／社会への影響
7. 東大主導の場合、【発表概要】や【発表内容】『東京大学大学院○○研究科の◇◇教授は、と東京大学で始まる主語で成果の段落は記載されているか。
† 大学院生が含まれている場合は、学年（東京大学大学院○○研究科 博士課程○年）も明記ください。
† ○○研究科（×）
→ 大学院○○研究科（○）
† 特任（准）教授（×）
→ 特任准教授（○）
8. 専門用語に用語解説または平易な表現による説明はついているか。
† in vitro（×）→ 試験管内で（○）
9. FAX送信しているため、注1など小さいものでなく（注1）と記入されているか。

10. 図が添付されている場合、【発表概要】、【発表内容】に図についての言及はあるか。
11. 本文中の図と図の番号は一致しているか。
12. ハイパーリンクは削除されているか。
† FAX送信しているため。
13. 略称に展開型は明記されているか。
14. 誤字脱字はないか。
† 遺伝子改変マウスを作成（×）
→ 作製（○）
† 10年に渡る研究の成果（×）
→ 10年に亘る（○）
15. ひらがなで表記している用語
† 様々 → さまざま
16. 句点と読点がコンマとピリオドになっていないか。
† . → 。 , → 、

書き方で迷ったら
気軽にお問い合わせ
ください。（竹本）



参考 UTokyo Research

東京大学の研究成果を世界中に発信するために本部広報室が企画・運営しているのがUTokyo Researchです。ウェブサイトを中心にそのほかにも展開を広げているその活動についてまとめました。

Website

東京大学本部広報室が運営するウェブサイト、本学の研究分野の案内板として2011年に開設されました。メディア、研究者、そして一般の読者の方々に、本学の優れた研究成果をご紹介します。記事は日本語・英語の両言語で用意しています。
和：http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/utokyo-research/
英：http://www.u-tokyo.ac.jp/en/utokyo-research/

Research News

学術論文やプレスリリースと紐づいた短い記事／500字、300words程度（280本以上、毎週）※研究成果を発表したい教職員がテンプレートに必要事項を記入して、提出

Editor's Choice

学術論文ではカバーしきれない研究やResearch Newsでは伝えきれない研究の深みなどを伝える記事（用語解説含む）／1000字～1500字、500-800words程度（40本以上）※教職員がライターによる取材を受けて広報室とライターとで記事作成（Feature Storiesも）

Feature Stories

部局などの組織や大型プロジェクトなど学術研究における東大の総合力を伝える特集記事／3000字、1500words程度（15本、隔月）

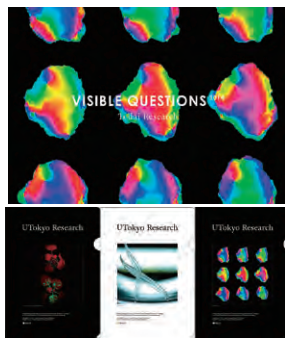
Publications

Feature Stories

1年間にウェブサイトに掲載したFeature Storiesの記事をまとめた冊子

Visible Questions

1年間にウェブサイトに掲載した記事の中から視覚的に魅力的な画像を集めた冊子



その他、イベント開催に合わせたパンフレットやクリアファイルなども作成しています。

Newsletter

毎週月曜日に配信されるメールマガジン（日本語・英語）で、ウェブサイトに掲載された1週間分の記事をお知らせしています。2013年より開始し、2014年8月現在600名以上の購読者がいます。
http://bit.ly/1fPM58W

UTokyo Research, on site

（メディア向け研究室見学）

駐日の海外メディアや大使館の科学技術アタッシェ等に本学の研究を紹介するため、シリーズで企画するイベント（すべて英語）です。普段は入れない研究室を見学して、本学の研究を“現場”で体験します。

第1回（2013年1月開催）

「日本の医療技術の研究開発：分野を超えた共同研究が医療を変える」
医学系研究科 & 工学系研究科と共同

第2回（2013年7月開催）

「防災に備えて今できること：東京大学における防災の分野横断的なアプローチ」
地震研究所、CIDIR & 史料編纂所と共同

第3回（2014年1月開催）

「脳に迫る：トップダウン、ボトムアップのアプローチを展開する東京大学の神経科学研究」
医学系研究科 & 医学部附属病院と共同

第4回（2014年7月開催）

「エネルギー産生と管理：東京大学の最先端エネルギー研究」
生産技術研究所 & 先端科学技術研究センターと共同

UTokyo Researchで
研究を世界に
発信しましょう！
（特任研究員・高祖）



まずは本部広報課（内線 82032）kouhoukikaku@ml.adm.u-tokyo.ac.jp お問い合わせを！



アインシュタインの最後の宿題に挑戦する大型低温重力波望遠鏡

KAGRAのトンネルが完成しました

微小すぎる時空の歪みを捕まえる究極の好奇心に迫る計画が進展中

アインシュタインの最後の宿題といわれているのが、重力波です。一般相対性理論で予言されたこの波動現象は、138億年前のビッグバン直後から始まって現在も宇宙中に響き渡っているはず。しかし、重力波の直接検出に成功した人はまだ誰もいません。重力波が来ると時空が歪んで2地点間の長さが変化すると考えられますが、その変化はあまりに微小すぎるため、観測できていないのです。

この微小な変化を捉えようと2010年に始まったのがKAGRA計画。スーパーカミオカンデを擁する神岡鉱山（岐阜県飛騨市）の地下200m以深に一辺3kmのL字トンネルを掘り、巨大望遠鏡を設置するのです。一般的な望遠鏡とは異なり、これはレーザー

干渉計という装置を使う望遠鏡。レーザー光を直交方向に二分して3km先の鏡で各々反射させ、戻ってくるほんの少しの時間差から長さの変化を捉えます。地下への設置は地面振動を大幅に減らすため。装置全体を覆う真空容器はレーザー光が空気の影響を受けないため。特殊なサファイアの鏡を-253度に冷やすのは熱による雑音を抑えるため。いかにも大変そうですが、そうでもないかと底捉えられない相手です。

そして2014年、KAGRAにとって非常に重要なトンネルがついに完成し、7月に見学会が行なわれました。宇宙線研究所重力波推進室神岡分室を出発した一行は、マイクロバスで淡青色のヘルメットを装着し、跡津川地区の坑口からトンネル内へ。L字の角に位置する「中央実験室」（となる場所）と3km離れた端にある「Yエンド実験

室」でバスを降り、重力波推進室・大橋正健先生の説明を聞きながら空洞の大きさを体感。声にエコーがかかり、防塵コーティングが施された壁と天井に特設照明やバスのライトが複雑に反射し、濡れた床面の効果も重なって、坑内は独特の幻想的なムード満点。装置構築前にしか味わえない空間の魅力に、視察に訪れた総長をはじめ名残惜しげな参加者が続出しました。

2015年末には試験観測を開始し、2017年度には本格観測に入るKAGRA。重力波を直接観測できれば、一般相対性理論の証明になるだけでなく、理解が進んでいない重力の本質や、宇宙誕生の瞬間に迫ることも期待できそう。KAGRAが捉えようとしているのは、波動現象や世界的な賞だけではありません。その射程には、人類究極の好奇心への答も含まれています。

中央実験室からYエンド実験室方向を望む。直径80cmの真空パイプが3km先まで250本以上設置される坑道に自動車が入れるのはもちろんいまだけ。

戦国のロマンを感じさせる神岡の道を歩いて坑口に向かう濱田総長一行。



2010年以降の神岡訪問となった総長。空洞の規模を体感して感慨深げ。



実験室に設えられた螺旋階段。数ヵ月後は気鋭の研究者が昇降しているはず。



2013年12月完成の重力波推進室神岡分室は世界の重力波観測の最前線基地。



見学会後の記者会見では総長から「ノーベル賞を取って欲しい」との言葉が！



ひょうたん島通信

大槌発! 第21回

岩手県大槌町の大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センターのすぐ目の前に、蓬萊島ほうらいという小さな島があります。井上さしの人形劇「ひょっこりひょうたん島」のモデルともされるこの島は、「ひょうたん島」の愛称で大槌町の人々に親しまれてきました。ひょうたん島から大槌町の復興、そして地域とともに復旧に向けて歩む沿岸センターの様子をお届けします。



あの忌まわしい震災から3年半

黒沢 正隆

国際沿岸海洋研究センター 特任専門職員

震災の事は皆様の知るところであり、ここでは省略。2011年4月8日に来町した濱田総長の「復興宣言」は、立ち止まるなかれと背中を押してもらったような気がした。国際沿岸海洋研究センターを甦らせることが被災地大槌への応援メッセージであることも知った。早速、当時の生産技術研究所の河谷特任教授の下で、動き出す。軽油の確保、水道・電気技術者の確保に奔走する。土地勘のある私は、避難所を回り業者をさがした。資材も作業員も不足する中、みんな快く引き受けてくれた。頭が下がる。5月には、センターのがれき処理のため、東京より業者の方10名が到着。宿舍まで往復3時間の道のりを通い、たった10日間で作業を終了させた。最後の日、彼らから遠慮がちに「避難所の子どもたちにお菓子をあげたい」との申し出があった。避難所は餅つきイベント中。早速担ぎ出された。ガタイのいいお兄さんたちの笑顔と涙を忘れまい。

目の前の防波堤は崩壊し、部分通電のセンターは、地元職員であるセンターの船舶部が管理する。本当に復旧するのか、センターは甦るのか不安がなかったわけではない。しかし今は心をひとつにして

前に進むしかない。これまで力を貸してくれた人たちを裏切るわけにはいかないのである。さて、観測船の確保に移る。(有)須賀ケミカル産業との交渉の結果、復興第一船として竣工すると約束してくれた。8月竣工。ありがたいことである。月日は流れ、現在、グランメーユも係船場を地元の漁師仲間に譲ってもらい、大槌湾に漂う。これで蓬萊島が元通りだったらなあと思ってしまうが…、過去は振り返らない!

観測業務も多忙を極める中で、後輩には技術指導はさることながら、我々の業務は地元の協力なくしては出来ないということ強く言っている。どんなに復興しようとも便利になろうとも人との関わりをおざなりにしてはならないと言っている。震災で強く学んだことである。

凡人の私には、一つの謎がある。震災前夜、庭に出たら、青い光の帯が目の前を過ぎた。「俺は死ぬのかな?」と呟嗟に思った。

昭和30年代の大槌湾・蓬萊島（ひょうたん島）。桜の咲く頃、一年でいちばん潮が引く時期におこなわれた親子遠足の風景。この蓬萊島の海辺一帯は震災で崩落。



約30年前、父親が死んだときアフリカ沖の洋上でみた光景と同じだった。この謎はなんだろう。年配者は「父さんが守ってくれたんだ」という。地震発生時、すぐさま大竹センター長（当時）と避難誘導。取り越し苦労ではないかと思うほど早くに【全員避難】した。この安堵感は生涯変わるまい。教職員のみならず感謝申し上げます。

ぴーちゃん日記

大槌湾から世界の海へ!

「ちょっと魅せます海の最先端研究」と題して、7月30日～8月3日までの5日間、プロジェクトグランメーユと国際沿岸海洋研究センター主催で特別イベントを行いました。

場所は何と!大槌町の誇る「ショッピングセンターマスト」です(第2回ひょうたん島通信コラム欄参照)。大槌町民の憩いの場、交流の場であるマストでのイベントなので、8月2～3日の週末に行われ

た、沿岸センター教員による講演会や煮干し解剖等のイベントには大勢の町民の方々にお越しいただき、盛況のうちに終了することができました。

震災前は、毎年7月の海の日に沿岸センター施設を開放して「海の日一般公開」を行い、1,000人以上の来場者で賑わいを見せていました。しかし、震災後は開催できず、町民の方々と沿岸センターとの交流が薄れていた印象が自分にはあり

ましたが、今回は久々に町民と研究者とのよい交流ができた、よい企画だったのではないかと思います。



「スナツブコケムシ、見つかるかな〜?」

制作：大気海洋研究所広報室（内線：66430）

ききんの「き」

—東大基金で森を動かす—

第16回

黒野 優菜 渉外本部 / 渉外・基金課 一般職員

寄附者と東大が会う日 ——「感謝の集い」の舞台裏

夏の初めは、渉外本部にとって忙しい時期です。年に一度、東大基金への寄附者の方を招いて「感謝の集い」という活動報告会+総長主催懇談会という構成のイベントを開きます。今年は雨にもかかわらず前年を大きく上回る約100名の方にお越し頂きました！寄附者の方の中にはこの会を楽しみに毎年寄附してくださる方もいるほどです。どんな会にしたらいいか？毎年、事前の部内ミーティングは連日かなり白熱します。

さて当日。今年の会場展示では、現在工事中の安田講堂関連のパネルや物品を展示することに。「安田講堂の本物の椅子」を借り、その日の朝に職員が何とか担いで会場へ搬入。想像以上の重さで、ぶつけたりしないよう慎重に運びました…。プレゼント抽選で用意した総長サイン本と東大ワインに当選した方は、総長から手渡されて大変感激されていました。そして最後に、応援部の学生がサプライズで登場。学ランの部員とチアリーダーのエルで会場は大盛り上がり！東京大学の歌「ただ一つ」が流れると、卒業生でない方も一緒になって歌って下さり、寄附者の方と総長、役員らが丸となった一体感が感じられました。

他にも色々な内容があるのですが全部は書ききれません。この「感謝の集い」は、寄附者の方に対し渉外本部だけでなく東大としての感謝を伝える一日です。年に一度のこの機会に、総長や教育研究現場の先生方、さらに学生と交流する機会を作ることで、東大を応援して良かったと思って頂ける会にするのが私たちの役目。東大の魅力を担っている学生や教職員の皆様の協力が不可欠です。さて来年はどうしよう…？展示に貸して頂ける貴重な逸品をお持ちの部署がありましたら、渉外本部までご一報を！重くても取りに行きます！



サプライズ登場の応援部。会場は大盛り上がり！

東京大学基金事務局 安田講堂改修寄附事業に協力を！

TEL 03-5841-1217 E-mail kikin@adm.u-tokyo.ac.jp
内線21217 URL http://utf.u-tokyo.ac.jp/

留学生さん いらっしやい!

第15回

海を越えて東大に来た学生に聞きました。



🇨🇦 カナダ

ピーター・ローフォード さん

Peter Lawford

工学系研究科社会基盤学専攻
修士1年

カナダ・マニトバ州出身。日本のいろんな街を歩き回るのが趣味。外国語、特に英語と全く異なる日本語を勉強するのが好き。最近是中国語も独学しています。

Q. どうして日本に来たんですか？



カナダを出て海外に行きたいと思っていました。海外経験豊富な父が推薦したのが日本でした。日本は安全で住みやすい国ですからね。

Q. ではどうして東大を選んだんですか？



父が東大研究者と交流がありまして、東大は日本のトップ大学という印象を持っていました。東大は日本で最良の機会を提供している大学だと思いました。実は日本の学生達と一緒に入試を受けたんですよ。いろいろな意味で、異文化体験をすることができました。



Q. いま学んでいるのはどんなこと？



洪水シミュレーション研究をしています。東大の社会基盤学は世界でもトップレベルなんですよ。来年の春に卒業を考えてますが、日本に残るか、カナダへ帰るかまだ考え中です。

Q. 日本で困ること、東大で好きなことは？



漢字は難しいですね。公的文書は特に困ります。東大のサークルに興味がありますが、留学生向けの情報が少ないのも残念。東京で好きなのは、何でも手に入ることと世界一の鉄道システム。東大で気に入ってるのは、様々な助言をいただける指導教官がいることです。



Q. カナダのいいところは？



出身地マニトバ州は淡水資源が豊富です。雪祭りも多く行われています。ウィネベグの実家付近でも今春はすごい雪が降ったんですよ！写真は実家前の母です。



協力：国際センター本郷オフィス 制作：本部広報課

ワタシのオシゴト 第102回

RELAY COLUMN

生産技術研究所
経理課予算執行チーム

持川 起代

初の研究所勤務、初心に戻り頑張ります!



伝票入力中。

7月にこちらに配属となりました。まず驚いたのが、建物がとにかく大きいことです（廊下が長い! 200mくらいあるそうです）。本部棟、工学部列品館、とこれまでの勤務地は事務棟だったため、同じ建物内で最先端の研究が行われているのもとても新鮮です。

ここでの担当業務は、数百円の消耗品から1億円以上の大型装置まで幅広い調達です。また、調達した物品は大学の資産となるため、それらの管理も行っています。他にも、事務用品の調達・管理など「何でも屋」な仕事も担当です（こんな事も担当なの!?!とびっくりすることもある）。

高額物品の調達は、契約額によって手続きが異なっている……のですが、異動直後で経験値0のため、現在は鋭意勉強中です。早く覚えて「入札」なるものをやってみたいです。

資産の管理は、取得の他にも様々な手続きがあります。大学の大切な資産なので、気を引き締めてやらねば! という決意を新たに、日々の業務に臨んでいます。



研究棟の前でチームの皆さんと。

得意ワザ：頭を使わない単純作業

自分の性格：末っ子気質

次回執筆者のご指名：金山慶祐さん

次回執筆者との関係：ビール仲間

次回執筆者の紹介：知的な雰囲気溢れる好青年です

Crossroad

産業界と大学がクロスする場所から、産学連携に関する“最旬”の話題や情報をお届けします。

産学連携本部

第105回

企業による教育支援

—Boeing Higher Education Program

産学連携には様々な側面がある中で、今回は教育に関する事例を取り上げます。東京大学では2012年秋から、工学系研究科国際工学教育推進機構・バイリンガルキャンパス推進センターが活動の中心を担いとりまとめを産学連携本部が務める形で、米国ボーイング社の教育助成“Higher Education Program”に参加しています。このプログラムはSTEM (Science, Technology, Engineering, Mathematics) 教育の強化を支援するためのもので、日本では東大を含む三つの大学が取り組んでいます。

東京大学ではこれまでこのプログラムの下で、飛行ロボット作成などのプロジェクト・ベースト・ラーニングや高校生との連携を図る高大連携、またさらに若い世代である小中学生へのアウトリーチ活動など、理工系への関心を高めるためのアクティブ・ラーニングを進め、そのうちの数回はボーイング社の方にも講演などのご協力を頂きました。昨年のはものづくり実験工房への3Dプリンタ導入も行ない、学生が様々な機会を活用しています。

この秋からは3年目に突入し、従前の活動を踏まえながらさらに充実を図っていく予定です。アクティブ・ラーニングを通じて理工系への関心や知見が深まり、関わった学生たちの今後の活動の幅が広まるとともに、その経験がそれ以降に参加する代へと繋がって欲しいと思います。

活動の報告は、サイト (<http://boeing-hep.jp/pbl/>ほか) に適宜掲載しています。是非ご参照下さい。



飛行ロボット製作中の学生の様子。

<http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/>

インタープリターズ・ バイブル

第85回

総合文化研究科 准教授
教養学部附属教養教育高度化機構
科学技術インタープリター養成部門

岡本 拓司

科学技術インタープリターに 関わりのないもの

科学技術インタープリターに関わりのないものなど、探すのが難しいというのが趣旨である。

本欄の名称は「インタープリターズ・バイブル」であるが、これは本来は、旧約・新約の聖書の一語・一句に、神学・語学・歴史学はもちろん民俗学等に至るまでのあらゆる知見を用いて詳細な解説を加えた浩瀚な書物の名称である。翻訳者であれ解説者であれ、或いは説教者であれ、「インタープリター」の語感を伝えるよい例であるので本欄の名称に採用されていると思われるが、その意図を理解するためには、表面的には科学技術インタープリターとは関わりの薄そうな聖書の解説書についてさえ、一定の知識が必要となるというわけである。

さらに科学技術インタープリターの中身に立ち入れば、まずは「科学」という語が何を指すかが問題となる。通常は自然科学が念頭に上るであろうが、人文科学・社会科学という言葉もあり、すると科学はほとんど「学問」の意味で用いられていることになる。それでも典型・模範とされているのは自然科学ではあろうが、その特徴は何であるかと考えるためには、自然科学以外の知識・学問と何が異なるのかを考える必要がある。そのためには、自然科学以外の知識・学問の方法や対象に関する、決して浅くはない理解が必要とされるであろう。

やや広げて「科学技術」としてみるとどうか。以前、平凡社の『大百科事典』の初版（1931年-1933年）を見る機会があった際、項目中にこの語がなかったことに新鮮な驚きを覚えたことがある。昭和初期には存在しなかったこの語は、日中戦争勃発（1937年）以降、高度国防国家の建設の一環として、科学・技術の活用のための新たな体制が築かれる過程で、「新科学・技術体制」、「科学・技術新体制」などの言葉を経て成立したのであった。西洋には一語でこれに対応するものはないとされる「科学技術」という言葉そのものに、明治維新以降、国家と社会が科学と技術の導入と育成を図ってきた足取りが刻まれているともいえる。

以上のような次第で、この欄に狭義の科学技術インタープリターに関わりのないように見える話題が上ることがあっても、どうかお許し頂ければ幸いである。

科学技術インタープリター養成プログラム
<http://science-interpreter.c.u-tokyo.ac.jp/>

救援・ 復興支援室 より

第39回

本学の救援・復興支援室の最近の状況や、遠野分室の日々の活動の様子をお届けします

救援・復興支援室の活動(8月～10月)

8月	岩手県陸前高田市「学びの部屋」学習支援ボランティア、福島県相馬市「寺子屋」学習支援ボランティア、福島県大熊町の避難生徒への学習支援ボランティア
9月～10月	岩手県陸前高田市「学びの部屋」学習支援ボランティア、福島県相馬市「寺子屋」学習支援ボランティア

ザシキワラシの日常

本部企画課係長(遠野分室勤務)



文：佐藤 克憲

救援・復興支援室では、同室に登録している復興支援プロジェクトの岩手県内での活動に資するため、遠野分室管理の下、車両の貸し出しを行っています。貸し出し車両は4台あり、これまでは遠野市内と釜石市に1台を配車していましたが、利用プロジェクトから新幹線停車駅での乗降を望む声が高まったことを受け、新花巻駅と北上駅にそれぞれ駐車場を確保し、正式に本年7月からそれぞれに1台ずつ配車・運用を開始しました（遠野の車両2台を移動）。

新花巻駅の駐車場所は、駅から5、6分程度歩くものの、新幹線の高架が低くなっている部分の下の空きスペースであるため、雨や雪の影響を受けにくいというのが大きなメリットです。北上駅の駐車場所は、駅の新幹線口を出て徒歩1、2分と至近であることが何よりのメリットで、雨ざらし状態ではあるものの、下が土である新花巻駅の駐車場所と比べ舗装されていて、雨天時でも汚れずに済むのもよい点です。

基本的に救援・復興支援室に登録した復興支援プロジェクトのメンバーでないと使用できず、学生については同プロジェクト教職員随員の「大学院学生」でなければ運転はできない等制約もありますが、岩手県内で活動されている復興支援プロジェクトの方々の積極的な御利用をお待ちしております（お問い合わせは遠野分室まで）。

今回もお読みいただき「オアリガトガンス！」。



(左) 新花巻駅駐車場所(奥の民家側から出入り)。

(右) 北上駅駐車場所(空きスペースに駐車。後ろが新幹線駅)。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/info_j.html

Email : kyuenfukkou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

内線：21750 (本部企画課)

トピックス

全学ホームページの「トピックス」(<http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/news/topics/>)に掲載した情報の一覧と、その中からいくつかをCLOSE UPとしてご紹介します。

掲載日	担当部署	タイトル	実施日
7月10日	宇宙線研究所	「大型低温重力波望遠鏡・KAGRAのトンネル完成」見学会を開催しました	7月4日
7月15日	本部学生支援課	夏期特別開寮等にむけ、本年度調理者研修会を実施しました	7月8日～9日
7月17日	環境安全本部	平成26年度「東京大学安全の日」講演会の開催	7月8日
7月22日	情報基盤センター	学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点第6回シンポジウム開催報告	7月10日～11日
7月25日	本部国際企画課	第11回プレジデント・カウンシル(医科学研究所)の開催	7月17日～18日
7月29日	農学生命科学研究科・農学部	【観蓮会】生態調和農学機構ハス見本園の公開	7月25日～26日
7月31日	高齢社会総合研究機構	博士課程教育リーディングプログラム「GLAFS」開講式	4月5日
8月4日	本部留学生・外国人研究者支援課	平成26年度第1回「外国人留学生支援基金奨学生証書授与式」開催される	7月30日
8月4日	医科学研究所	第21回東アジアシンポジウムに参加	7月17日～18日
8月5日	カブリ数物連携宇宙研究機構	女子中高生進路支援イベント「宇宙ヲ聴キ 宇宙ヲ見ル」を開催しました	8月2日

お知らせ

人事異動情報など全学ホームページ「お知らせ」(<http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/news/notices/>)・東大ポータル等でご案内しているお知らせを一部掲載します。

掲載日	担当部署	タイトル	URL
7月14日	本部入試課	2015年度版大学案内の公表・配布について	http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/news/notices/2620/
7月15日	学生相談ネットワーク本部	弥生キャンパスなんでも相談室開設	http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/news/notices/2694/
7月28日	本部入試課	平成27年度東京大学入学者選抜要項の公表・配布について	http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/news/notices/2621/
7月28日	本部入試課	平成28年度推薦入試について(更新)	http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/news/notices/2759/
8月1日	本部人事給与課	人事異動(教員)	http://www.ut-portal.u-tokyo.ac.jp/wiki/index.php/人事異動(教員)



CLOSE UP

第11回プレジデント・カウンシルを開催 (本部国際企画課)



本会議の様子。



スピーチをする総長。

平成26年7月18日(金)、第11回プレジデント・カウンシル会議が東京大学医科学研究所において開催されました。今回の会議には、12名のカウンシル・メンバー※を迎え、濱田純一総長、前田正史理事、松本洋一郎理事、相原博昭理事、江川雅子理事、羽田正国際本部長(副学長)、清野宏医科学研究所長らが出席し、“Higher Education for the 21st Century”をテーマに意見交換が行われました。冒頭に総長によるスピーチが行われ、Diversity向上、優秀な学生の獲得および教育、ブランディング、海外パートナーとの連携等、本学のグローバルな視点による教育及び運営に資する、活発な討議がなされました。また、清野医科学研究所長

による医科学研究所の紹介、松田浩一准教授によるプレゼンテーションも行われました。続けて医科学研究所内の血倉庫の見学、北村俊雄教授による近代医科学記念館のツアーが行われ、会場となった医科学研究所の研究を紹介する機会もありました。

※ Professor Dr. Her Royal Highness Princess Chulabhorn Mahidol (タイ王国第三王女殿下/チュラボーン研究所長)、Dr. Morris Chang (TSMC創設者・会長)、Dr. Un-Chan Chung (韓国元国務総理 ソウル大学元総長)、Dr. Bertrand Collomb (ラファージュ・グループ名誉会長)、Dr. Rita Colwell (米国11代NSF長官/メリーランド大学、ジョンズ・ホプキンス大学特別栄誉教授)、Dr. Victor Kwok-King Fung (利豊グループ・ノンエグゼクティブチェアマン)、黒川清氏(政策研究大学院大学アカデミックフェロー)、Mr. Par Nuder (Senior Director Albright Stonebridge Group 元財務大臣)、Dr. Kari Olavi Raivio (ヘルシンキ大学名誉学長)、許 智宏氏(北京大学元学長)、横山禎徳氏(東大EMP特任教授/元マッキンゼー東京支社長)、吉野洋太郎氏(ハーバード大学ビジネススクール名誉教授)

退任の挨拶

このたび退任された副理事の挨拶を以下のとおり掲載します。

たゆたえど沈まず

前副理事 **鈴木 敏之**

このたび7月31日付けで東京大学を退職し、副理事を退任することとなりました。平成20年7月に奉職以来、部長職として企画・評価等に携わり、また、教育制度等を担当する副理事としては、総長のリーダーシップの下、「総合的な教育改革」の事務局の統括役を務めさせていただきました。6年間、貴重な機会を与えてくださった東京大学、様々なかたちでお世話になった関係者の皆様に対し、心より御礼申し上げます。

「よりグローバルに、よりタフに」を合い言葉とする教育改革は、そのプラットフォームである新たな学事暦（4ターム制）の導入、多様な学生構成を目指し

た推薦入試の開始を間近に控え、正念場を迎えています。また、総合研究大学として、学術研究の卓越性を追求していく緊要性は論を待ちません。他方、政府が進めている大学改革においては、「ガバナンス」がメインテーマになるなど、社会の各界からの要請と「大学の自治」との緊張関係が高まりつつあります。

さて、表題の「たゆたえど沈まず」(Fluctuat nec mergitur.)はパリ市の標語だそうです。日本の大学群のフラッグシップたる東京大学の進もうとする航路は海図無き未知の領域。皆様のご健勝と航海の安寧をお祈り申し上げます。



CLOSE UP

生態調和農学機構ハス見本園の公開

(農学生命科学研究科・農学部)



多くの方がハスを楽しみました。



7月25～26日、農学生命科学研究科附属生態調和農学機構（西東京市）のハス見本園で観蓮会を開きました。

ハス見本園は系統保存と教育研究を目的に設置されており、200種を超える品種・系統が栽培されています。その中で、「緑地美人」(写真)という品種は、生態調和農学機構の前身の一つである緑地植物実験所で交配作出し、本学の名義で品種登録されています。

今年から、観蓮会の前に一般公開を14日間行い、ハス見本園でのガイドを市民ボランティアの方々にお願いました。また初めて観蓮会

を土曜日にも開催しました。一般公開を含めると延べ入場者数は900名を超え、来園者はガイドを聞きながら園内を巡ったり、写真を撮ったり、スケッチを描かれたり、俳句を詠まれたりと、思い思いに楽しまれていました。今年の観蓮会はとても暑く、「ハスのシャワー」で涼をとっていただきました。ハスの茎はレンコンと同様の作りで水が通りやすくなっているのです。

さらに本学検見川総合運動場（当時は本学厚生農場）で発掘された大賀ハスの香りをイメージしたオリジナル香水の販売、学生実習の生産物販売や農場博物館の開館も行われました。



CLOSE UP

弥生キャンパスなんでも相談室開設

(学生相談ネットワーク本部)



長谷川壽一理事・副学長を中心に記念撮影（農学生命科学図書館前）。

5月27日、弥生キャンパスに「弥生キャンパスなんでも相談室」が新設されました。この相談室は、学生相談ネットワーク本部のスタッフが相談に応じています。弥生キャンパスに在籍・在職する学生・家族・教職員等はもちろんのこと、弥生キャンパス以外の東京大学に在籍・在職する学生・家族・教職員等も利用できます。この相談室が開室されたことにより、

学内の主なキャンパスへの展開が進み、学生支援の幅が更に広がることとなります。

場所：農学生命科学図書館3階内線：28349

受付時間：平日9：30～17：30

なんでも相談コーナー：毎週火曜日、隔週木曜日 14時～17時

学生相談所：第2・第4水曜日 14時～17時

精神保健支援室（保健センター精神科）：第3水曜日 2時間(40分×3コマ)



2014年ブラジル、もうひとつのキックオフ

サッカー・ワールドカップの開幕を間近に控えた2014年5月、ブラジルで東洋美術史の学会が創設され、第1回となる会議がサンパウロで開催された。「世界最大の日系人コミュニティをもち、マンガやアニメを通じて若者の日本文化に対する関心が強い」。そんな主催者からの誘いをうけて現地を訪れ、日本中世の絵巻について講演を行った。

ヨーロッパとの深い歴史的つながりをもつ南米では、美術史といえば西洋美術史を指す。そうしたなか、東洋美術史を議論する場の出現に予想以上の反響があり、ブラジル各地から大学院生を中心に50名以上の発表希望者が手を挙げたという。テーマは、浮世絵からマンガ、アニメ、映画、庭園、刺青（いれずみ）にいたるまで、あらゆる視覚文化に広がり、日系の学生が多かったこともあって日本に関するものが半数にのぼった。熱心な討議と笑顔あふれる会議運営は、未来への確かな手応えを感じさせた。

サンパウロの日本人街を歩くと、どこことなく「昭和」の風情がただよい、地球の裏側にいることを忘れてしまう。一世紀にわたり日系社会が蓄積してきた厚い土壌の上に、イ

ンターネットを介して現代の日本文化が降り注ぐことで、学問の新たな芽が吹き始めたようだ。

欧米における日本美術史は、戦後の70年を経て、第3世代から第4世代を迎えている。彼らは、徹底した日本語力の練磨と豊富な日本留学経験によって高い学問水準を維持し、研究者の再生産に成功している。米国では、中国美術史や韓国美術史の進展もめざましく、日本も含めたアジア全体を見わたす大きな展望が開かれつつある。そこでは、アジア系研究者も重要な役割を果たしている。

ブラジルの東洋美術史は、キックオフの笛が鳴ったばかり。欧米、そしてアジアの研究者と連携しながら、南米の若者を育てていくことが重要だ。サッカーのように、多彩な地域の人々を熱狂させる学問へと発展させるために。

高岸 輝

(人文社会系研究科)